

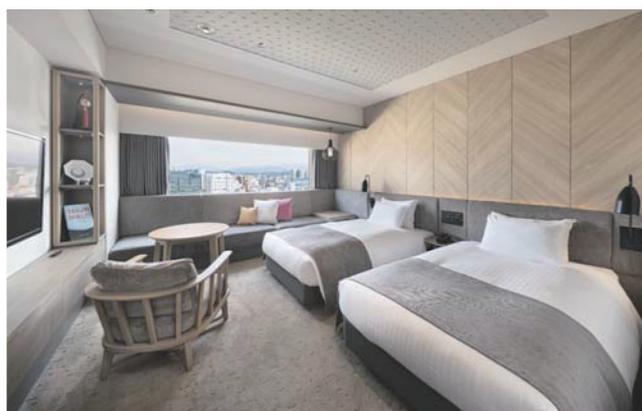
国際都市として注目を集める福岡では、西日本最大の繁華街の天神地区で「天神ビッグバン」を進めており、2024年までに30棟のビルの建て替えが予定されている。新たな空間と雇用が生まれる計算で経済効果も大きい。観光の視点でみても空からは航空機で、海からは船で訪れることができるため、観光客が年々増加している。

今年50周年を迎える西鉄グランドホテルは、福岡のランドマーク的存在だが、同じ会社が運営するソラリア西鉄ホテル福岡は、西日本鉄道天神駅に隣接している。昨年秋にリニューアルを終えてインテリアデザインが一新された。

和モダンのテイストが基本だが、目を引くのが部屋の随所に地元の伝統工芸品をちりばめたことだ。壁には額装された博多帯が飾られ、浴室には家具の町として知られる大川町で制作したアメリ

インテリアデザインのチカラ

⑦



ソラリア西鉄ホテル福岡の各部屋の飾り棚には伝統工芸品とアート本が飾られている

地元の伝統でおもてなし

ティーボックスが置かれている。客室で使う急須と湯飲み茶わん、コーヒーカップなどは伊万里焼であつらえた。飾り棚には絹糸の色使いが美しい柳川のさげもんが飾られている。

工芸品が際立つように部屋の内装は木目や穏やかな色味でまとめられている。飾り棚の横には住宅で使うような高さの低い椅子とテーブルがあり、宿泊客は自宅のリビングのようにくつろぐことができる。

もうひとつの特徴は地元の名所と工芸品を紹介したアート本「TENJIN SHELF」だ。このようなアート本は海外の五つ星クラスのホテルでは見かけることも

万里の茶器や大川町の組子など、客室を彩る工芸品の地元や、沿線の名所が写真と文章で紹介されている。撮影も福岡出身の写真家によるものだ。日本語と英語の表記で海外のお客さまも楽しむことができる。

あるが、日本では珍しい。沿線とともに歩んできた鉄道会社グループだからこそ実現したのだろう。

地元の伝統工芸品をお客さまをおもてなししたい、地元の良さを知ってほしいという思いが宿泊客に伝わり、お客様満足の評価も上昇しているそうだ。得意分野をデザインに取り入れて成功した事例と言える。